

煩悩

市川茂子

オリンピックの聖火出発の映像にあやかりていま散歩に出でぬ
聖火掲げあまたの人の走り次ぐリレーの無事に着く日を待てり
道すがら白梅紅梅咲きいたり長閑のどかな日々コロナ広がる
里山の風の吹きくる心地なり路地に散りくる桜花にふれて

防具なるマスクの顔に知り合いと気付かず行き交いスーパ―を出る
雨ごとに色濃くなりて木々は萌えコロナ巣ごもりいつまでつづく
新緑に囲まれながら花のある墓園に通う夫つまの命日
めぐり来る彼岸に向きて佇たつ此岸亡夫の呼ぶ日を静かに待たん
思いやりあれど差し上ぐる物なきを「眼施げんせ」「心施しんせ」と仏典にあり
幾度も迷うひと日よ煩悩の果てなき思いくり返しおり